

# ICT利用による「学ぶ喜び」を支える社会

2014年7月24日

学研教育総合研究所

栗山 健

# 目次

- JMOOC(オープンエデュケーション)
  - 新しい学び方
  - スマートデバイス
- 学ぶ喜びを支える社会
  - ICTによる可能性
  - 学習記録データ
  - 例えば

# JMOOC

Your Learning, Your Style.

白熱した授業

Traditional class

at home

従来の授業

第一歩目 知識の習得

in place

in put

Flipped class

at home

反転授業

in class

演習・演習 知識の応用

out put

反転授業

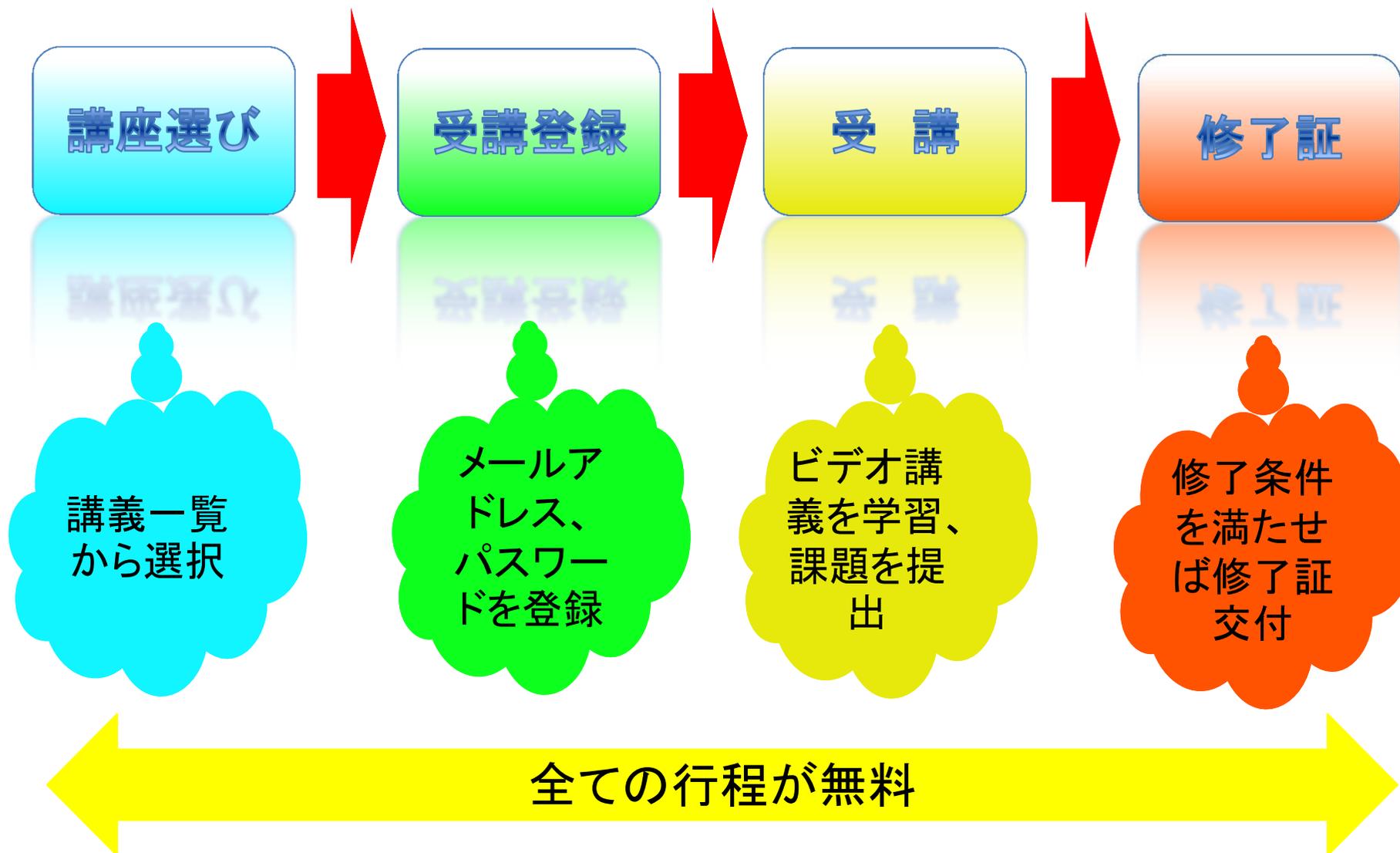
JMOOC

NON SCHOLAE SED VITAE  
Learning for Your Life

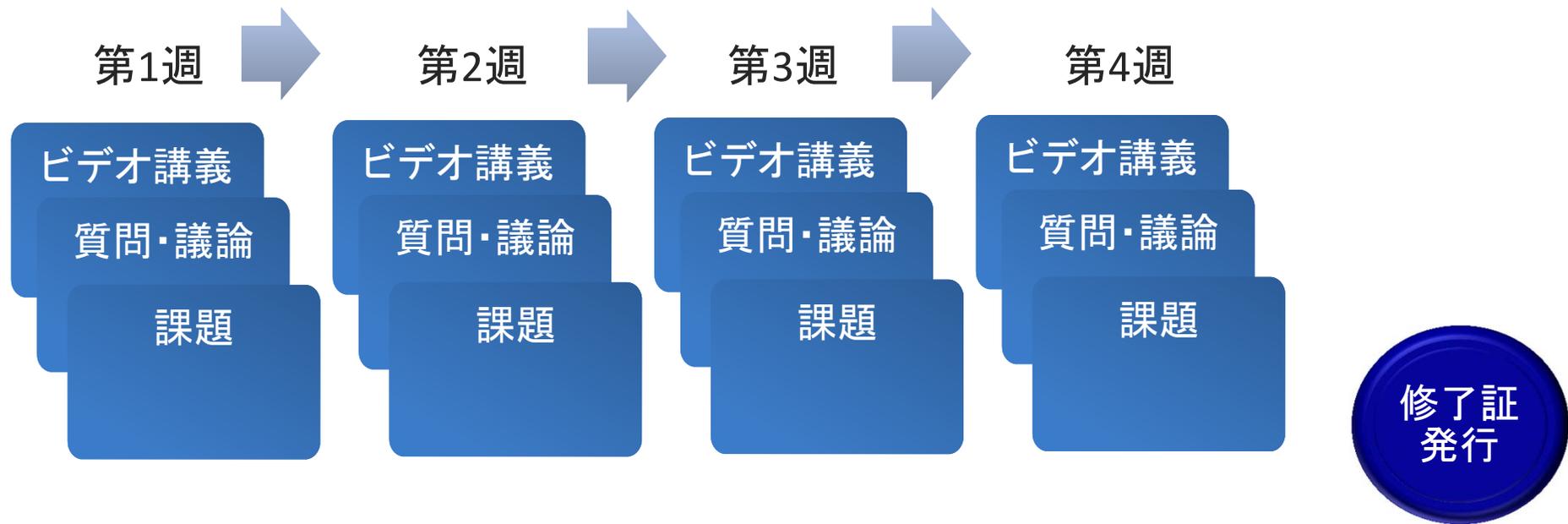
OUJMOOC

Powered by CHILO Book

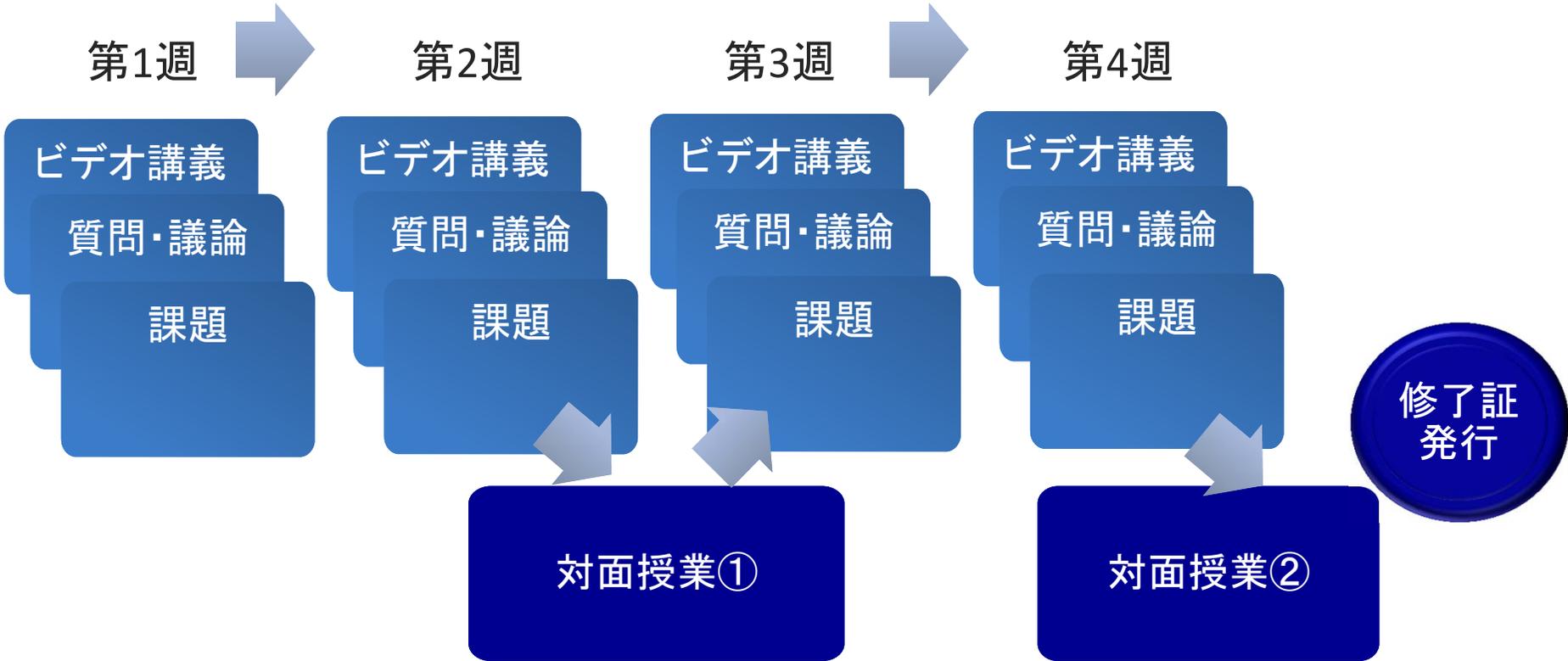
# 受講登録から修了証取得までの流れ



# 通常コースの場合



# 反転学習コースの場合



# 事例紹介（講座概要）

- ヘーゲルの所有の概念を用いて日本中世史における自由と平等を再考する
- 期間：4月14日～6月30日
- 講師：本郷 和人（東京大学史料編纂所 教授）

# 実施結果

	通常コース	反転学習コース
登録者数	<b>20,051名</b>	<b>92名</b>
修了者数	<b>3,593名</b>	<b>74名</b>
修了率	<b>18%</b>	<b>80%</b>

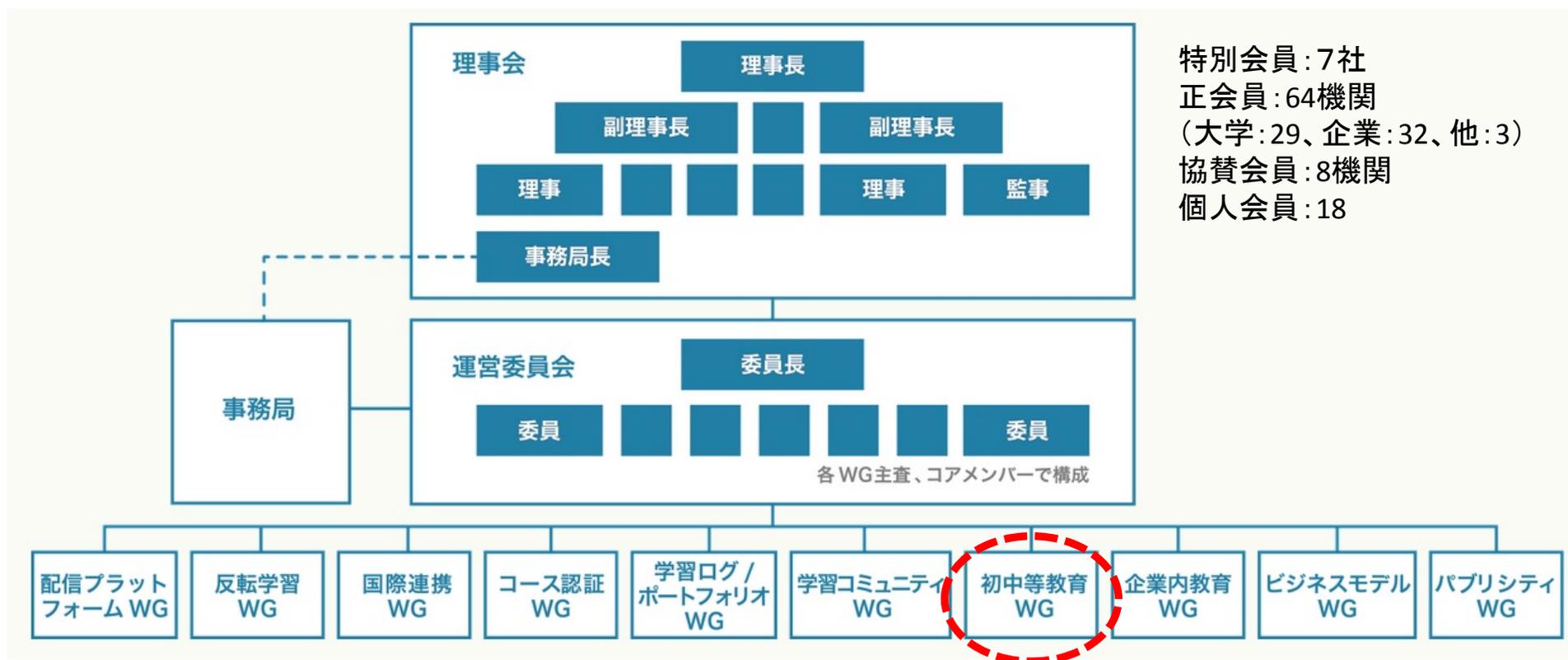
# 利用端末

	端末	比率
1位	デスクトップ	<b>64.9%</b>
2位	モバイル	<b>24.3%</b>
3位	タブレット	<b>10.8%</b>

# 日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)

## ミッションステートメント

JMOOCは日本とアジアのための「学びによる個人の価値を社会全体の共有価値へ拡大するMOOC」の実現を産学の連携によって強力に牽引します



初中等教育段階の児童・生徒に対するMOOCによる展開の可能性(遠隔教育含む)を検討

# オープンエデュケーション

- JMOOC
  - モバイルラーニングのきざし
  - 対面学習との組み合わせ
- JMOOC初中等版を検討中
  - いつでも、どこでも、だれでも
  - 必要とされる機能やサービスの模索
  - 初中等用プラットフォームの必要性

# ICT利用による可能性

- 教材等の細切れ化 (unbundling)
- 個に応じた学びの可能性 (Personalize)
- つながる学び (Social)
  - 人 先生、児童生徒、保護者、教育事業者
  - 時間 学年、校種
  - 空間 学校、家庭、塾、地域、国

## 1 基礎学力の定着を図ります。



すべての教科の基礎となる、国語と算数（数学）の学力を、どちらも重要なものと考えています。くり返し学習と毎日の家庭学習により、しっかりとした定着を図ります。さらに教科書の内容をより深めた応用的な学習もできます。

## 2 無学年方式で一人一人を大切にします。



学校の進度や学年にとらわれない、対面・対話型学習指導で、子どもたちの学力や性格をつかんで指導します。自分のペースで学習することで、本当の学力が身につきます。

## 3 自学自習の習慣付けを行います。



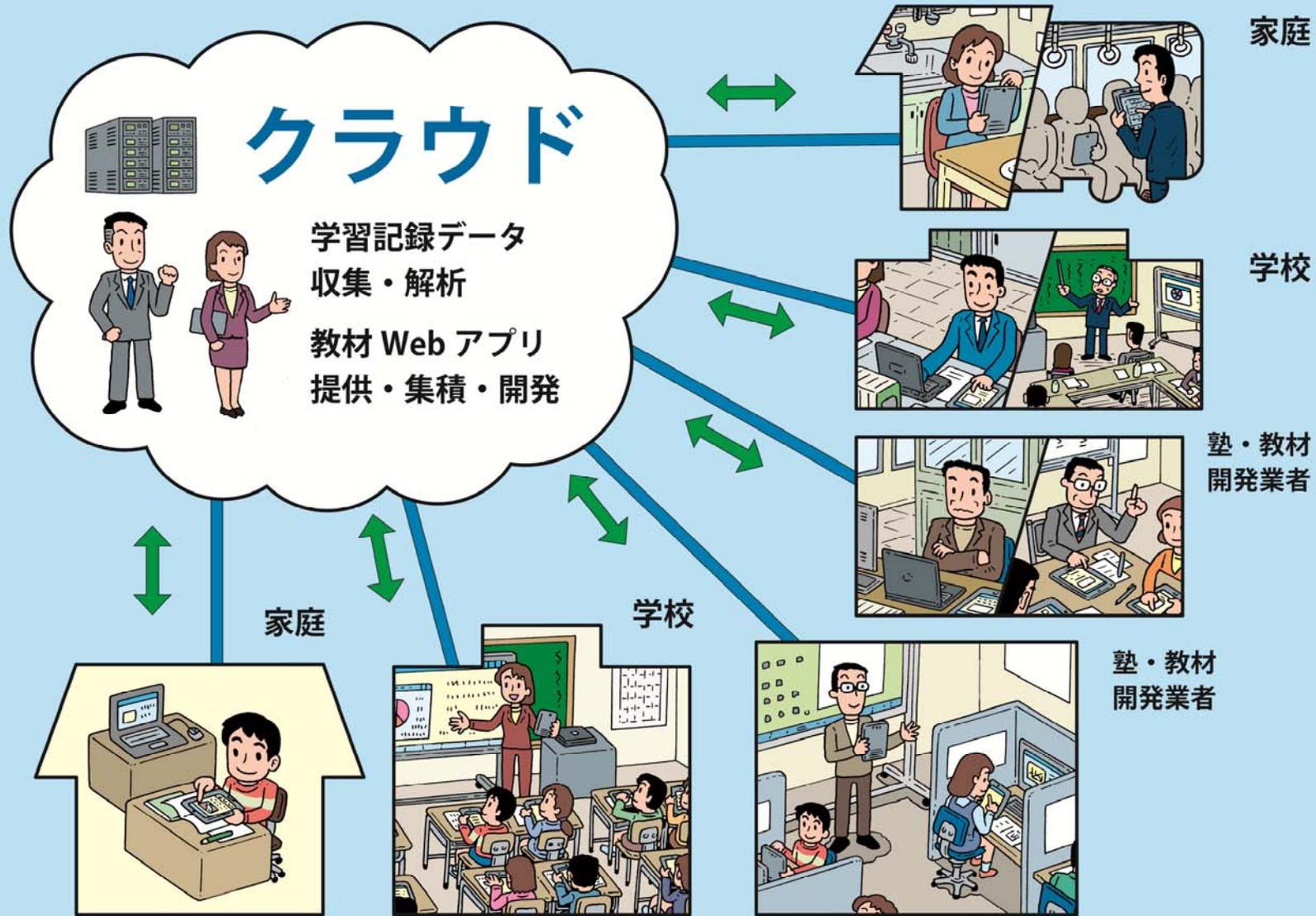
一人一人の学習に応じた最適な教材を与え、適切なアドバイスをすることで、自分から進んで学習する態度や能力が育ちます。

## 4 徳育面を重視しています。



人と人との触れ合いの中で学び、考えることで、バランスのとれた子どもを育てます。知育だけでなく、教室でのあいさつや、靴・かばんの整頓など、しつけ面の指導も重視しています。

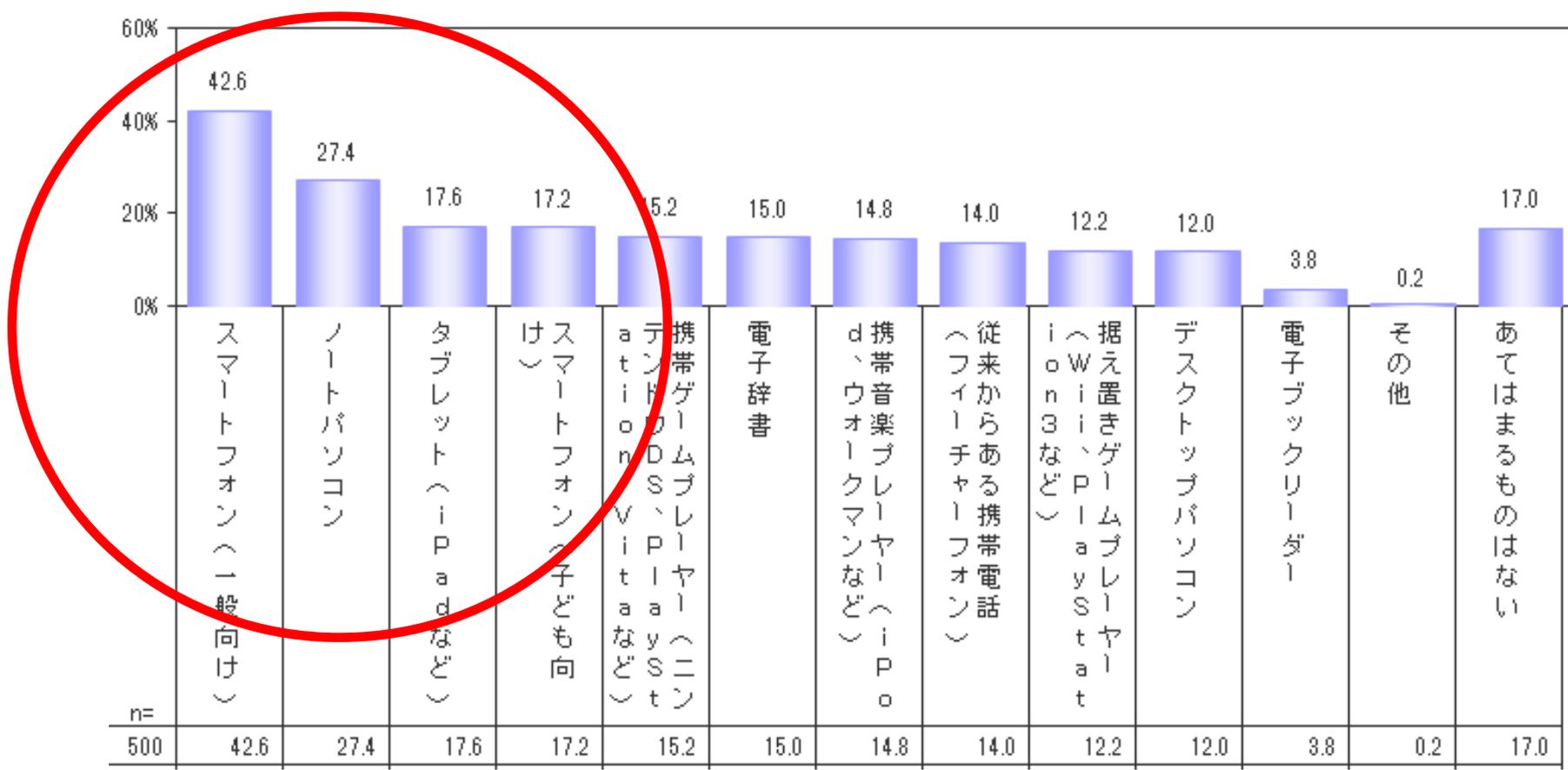
# 学ぶ喜びを支える社会



# 例えば A君の一日(算数版)

- 授業前
  - 友達とクイズ形式のゲーム(実は算数ドリル)で遊ぶ
- 授業中
  - 先生が作った算数の課題を解く
- 放課後
  - 友達とクイズ形式のゲームの続きで遊ぶ
- 塾で
  - 塾の課題(算数の発展問題)を解く
- お家で
  - 宿題の算数の予習映像を見る(反転学習)

# スマートデバイスに興味



中学生になったら利用したいもの ※複数回答

(学研教育総合研究所 2014年3月調査)

# 例えば

- スマートデバイス
  - 学びの道具(ラーニングツール)として
  - 学びのセンサーとして(いつ、どこで、何を学んだ)
  - 学びのナビゲーターとして
  - ウェアラブルデバイスの可能性も
- 学習記録データ(クラウドに置いてあれば)
  - いつ、どこで、何を学んだか
  - どこで「つまずいた」
  - どこで「行き詰まった」
  - ⇒ その子にあった教材や指導法を
  - ⇒ 教材や指導法の開発にも(ビッグデータ活用)  
望まれるラーニングアナリストの養成

# 例えば

- オープンエデュケーションを利用して
  - 「いつでも」「どこでも」「誰でも」
  - 個に応じた学び方
    - 自分のペースで
    - 字幕付き、何度も再生可能
- コミュニティ・ベースト・ラーニング
  - 学ぶ喜び・教える喜びの経験を
  - 先生だけでなく子どもたちも教材作成を
  - 解き方の説明も子どもたちが
  - ゲーミフィケーションも取り入れて
  - ソーシャルキャピタル(地域のつながりと学び)
  - サービスラーニング(ボランティア活動が大学生の単位に)

# 学びのデータを有効利用



- 学びのライフログ
  - 初中等教育から生涯学習まで
    - 学習履歴の連続性(学習経験の記録)
    - 学習空間の連続性(どこにいても継続した学びを)
  - ⇒ 標準化されたフォーマットや手続きが必要に
- 学びあい教えあいの様子を
  - ロギング → テキスト化
  - 対話分析 → モデル化
  - 学習プロセスの可視化
  - 家庭教師ロボットも可能かも

# おわりに

- 進歩する技術
- 技術を利用する社会
- 制度と技術のバランスを
  
- そのためにも
  - 関係者が集まって議論する場が重要
  - その先の実現に向けて